〈二次トリアージ　PAT法〉

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 第一段階：生理学的評価 |  | 第二段階：解剖学的評価 |
| 意識　JCS2桁以上  呼吸　9回／分以下、30回／分以上  脈拍　120回／分以上,50回／分未満  血圧　BP90未満、200以上  CRT　 2秒以上  Sp02　90％未満  その他　ショック症状  低体温(35度以下)  注)　心肺停止であれば治療対象外(0)に  分類する。 | 頭部の開放創・変形、髄液鼻漏、髄液耳漏  外頚静脈の著しい怒張、気管偏位・変形  頸部の皮下気腫、胸部の皮下気腫  胸郭動揺、奇異性呼吸  開放性気胸  腹部膨隆、腹壁緊張、腸管脱出  骨盤の動揺・圧痛、下肢長差  大腿の変形・出血・腫脹・圧痛、下肢長差  四肢切断  四肢麻庫  穿通性外傷  四肢軟部組織剥脱  15％以上の熱傷、顔面気道熱傷等  JPTECの全身観察の項目に準拠 |

いずれかに該当していれば最優先治療対象群(Ⅰ)

|  |  |
| --- | --- |
| 第三段階：受傷機転による対応 | |
| 評価など | 傷病状態及び病態 |
| 受傷機転 | 体幹部の挟圧、1肢以上の挟圧(4時間以上)、爆発、高所墜落  異常温度環境、有毒ガス発生、汚染(NBC) |

※第三段階の受傷機転で重症の可能性があれば一見軽症であっても待機的治療群(Ⅱ)

の分類を考慮してもよい。

|  |
| --- |
| 第四段階：災害弱者に対する対応 |
| 乳小児、高齢者、妊婦、障害者、慢性基礎疾患、旅行者 |